

# News Release (2) 南丹市

【平成 31 年 4 月 25 日 (木) 16 時発表】

## ▼南丹市文化博物館 春季企画展

### 「芦生の森 森の魅力を探る」の開催について

#### ■内 容

平成 28 年 3 月に、京都府の中央部、京都市、綾部市、南丹市、京丹波町にまたがる丹波高原が京都丹波高原国定公園として指定を受けた。

この国定公園は、原始的な自然を有し、希少な動植物の生息地でもある芦生研究林も含まれている。

本展は、芦生の森とその周辺の人々の暮らしにスポットをあて、歴史・民俗資料に加えて、日本の原風景を描き続ける画家・吉田伊佐氏が描いた芦生を展覧し、その歩みを紹介します。

- 開催期間 2019年4月27日(土)～6月23日(日)  
午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 開催場所 南丹市立文化博物館
- 休館日 毎週月曜日(4月29日、5月6日は開館)、4月30日、5月1日、5月7日
- 入館料 ※大人300円・高校大学生200円・小中学生100円  
※20名以上の団体は2割引、各種手帳の所持の方及び介添え人1名半額  
※南丹市内在住の小中学生は無料

### 《油彩によるワークショップ（実演）》

- 開催日時 2019年5月18日（土） 午後1時30分～3時
- 開催場所 南丹市立文化博物館
- 内 容 油彩表現の実践  
講師：吉田 伊佐さん
- 定 員 20名（どなたでも参加いただけます）
- 参加費 無料（ただし入館料が必要）

### 《芦生研究林内を散策（研究林内での学習及び現地見学）》

- 開催日時 2019年6月9日（日） 午前10時30分～午後4時  
（午前10時～ 講堂で受付）
- 開催会場 芦生研究林講堂及び研究林内
- 内 容 芦生研究林の植生等について学習後、研究林内を散策  
講師：京都大学フィールド科学教育研究センター 職員他
- 定 員 20名（参加対象は中学生以上）
- 参加費 5,000円（昼食付）
- 申込方法 文化博物館へ電話で申込み

※現地（芦生研究林）集合となります。持ち物等は参加者にお知らせします。

#### ◆この記事に関するお問い合わせ

南丹市立文化博物館 担当：井尻（電話 0771-68-0081）

平成31年度春季企画展

# 芦生の森

森の魅力を探る



芦生研究林の誕生から現在までを歴史・民俗・絵画作品で紹介します。画家吉田伊佐氏が描いた約30点の作品も併せて展示します。

## 油彩によるワークショップ(実演)

日時:2019年5月18日(土)13:30~15:00  
会場:南丹市立文化博物館  
内容:油彩表現の実践  
講師:吉田伊佐氏  
定員:20名(どなたでも参加いただけます)  
参加費:無料(ただし入館料が必要)

## 芦生研究林内を散策(研究林での学習及び現地見学)

日時:2019年6月9日(日)10:30~16:00 (10:00から講堂で受付)  
会場:芦生研究林講堂及び研究林内  
内容:芦生研究林の植生等について学習後、研究林内を散策  
講師:京都大学フィールド科学教育研究センター 職員他  
定員:20名(参加対象は中学生以上)  
参加費:5000円(昼食付) 申込:文化博物館へ電話で申込  
※現地(芦生研究林)集合となります。持ち物等は参加者にお知らせします。

# 2019.4/27[土] ▶ 6/23[日]

開館時間=9:00~17:00(入館は16:30まで)

休館日=毎週月曜日(4/29, 5/6は開館)、4/30, 5/1, 5/7

入館料=大人300円、大高生200円、小中学生100円

20名以上の団体は2割引、南丹市内在住の小中学生は無料、身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳・戦傷病者手帳を持つ方とその介護者は半額(手帳をご提示ください)

# 南丹市立文化博物館

〒622-0004 京都府南丹市園部町小桜町63番地 / TEL:0771(68)0081 FAX:0771(63)2983



【交通案内】◆自動車…京都縦貫自動車道「園部IC」八木西ICより約5分。◆電車・バス…JR園部駅西口より京阪京都交通バス「八田線」もしくは「園部線」に乗車、「交流会館前」下車すぐ。または、市営ぐるりんバスに乗車、「図書館前」下車すぐ。



丹波州之図【部分】(明和5年)



獲られた熊\*



わさび祭(平成30年4月撮影)



苗畑へ向かう木製機関車(昭和45年)\*



木地師が作った器(明治後期)\*



木馬による炭俵の運び出し\*

平成28年(2016)3月に、京都府の中央部、京都市、綾部市、南丹市、京丹波町にまたがる丹波高原が京都丹波高原国定公園として指定を受けました。この国定公園の中には、原生的な自然を有し、希少な動植物の生息地でもある芦生研究林も含まれています。

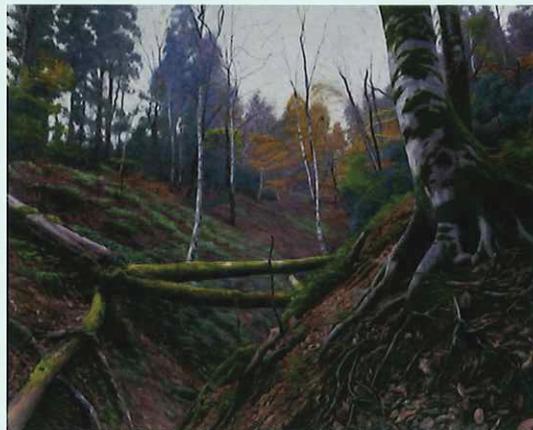
現在、この研究林は、大正10年(1921)から99年間の地上権が設定され、現在の京都大学が地権者である知井村九ヶ字財産区から土地を借り管理しています。この契約は2020年で一旦終了することになりますが、今後も継続した自然保全活動が望まれています。

本展は、芦生の森とその周辺の人々の暮らしにスポットをあて、歴史・民俗資料に加えて、日本の原風景を描き続ける画家・吉田伊佐氏が描いた芦生を展覧し、その歩みを紹介します。また、これまで芦生研究林で行われてきた研究や活動についても多くの方々を知っていただく機会となれば幸いです。

## 吉田伊佐氏が描いた芦生



大カツラ・春(平成30年)



上谷杉尾峠近く(平成31年)

# 芦生の森 森の魅力を探る

表面：大カツラ(広瀬慎也氏撮影) 修羅だし(個人提供)  
上部：\*京都大学フィールド科学教育研究センター提供  
下部：全て個人蔵



上谷アシウスギ(平成30年)



トチノ木平(平成30年)



上谷新緑Ⅰ(平成30年)